

種子島宇宙センター広報展示への民間活力導入に関する
サウンディング型市場調査の結果について

2022年2月22日

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)

鹿児島宇宙センター

種子島宇宙センターでは、H-II ロケット 7号機実機及び H3 ロケット供試体を含めた広報展示に関して、PFI 手法(民間資金等活用事業)を導入することを検討し、PFI 手法による事業の実現可能性等を検証するため、民間事業者の皆様との対話によるサウンディング型市場調査(以下、「サウンディング」という)を実施しましたので、その結果を公表します。

1. サウンディングの実実施スケジュール

2021年9月1日(水)	サウンディング実施要領の公表
2021年9月13日(月)～2021年11月11日(木)	サウンディングの実施
2022年2月22日(火)	サウンディング結果概要の公表

2. サウンディングへの参加事業者

業種	参加者数
建設業	2社
不動産業	4社
サービス業	1社
リース業	1社
一般財団法人	1社
合計	11社

3. サウンディング結果概要

項目	内容
事業内容に関する提案	<p>【新規開発事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊施設(高級リゾート、キャンピング、グランピング、長期滞在型ワーケーション)の整備 ・ 体験型観光アトラクション(プラネタリウム、逆バンジー、宇宙エデュテイメントツーリズム、多目的広場、パークゴルフ)の新設 <p>【既存施設等活用事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇宙科学技術館及び施設案内バスツアーの有料化 ・ 小型射点での宿泊施設やカフェの運営 ・ 竹崎広場における打上げ見学イベントの実施 ・ 種子島宇宙センターの他の請負業務を一括請負することでの投資費用の回収 <p>【ロケット展示建屋について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H3 ロケット供試体、H-II ロケット 7号機については新たな建屋が必要。筑波にあるスペースドームのようなテントタイプが良い ・ 高級リゾートとロケット展示建屋の併設 ・ 建屋の建設費用などは JAXA 負担、運営面を PFI 事業で賄う

事業方式に関する提案	<ul style="list-style-type: none"> 定期借地権、BTO方式、BOT方式、コンセッション方式 ※ BTO:民間事業者が施設等を建設し、施設完成直後に公共施設等の管理者等に所有権を移転し、民間事業者が維持・管理及び運営を行う事業方式 ※ BOT:民間事業者が施設等を建設し、維持・管理及び運営し、事業終了後に公共施設等の管理者等に施設所有権を移転する事業方式
実施体制に関する提案	<ul style="list-style-type: none"> SPC(特別目的会社)の株主としてリターンを得る方法 展示の専門企業、運営会社、ゼネコンという集合体での体制 地元の企業、運営、建設、設計する企業と協力 ゼネコン、開発系の会社、地元企業等とコンソーシアムを組む ファイナンスリース系の企業が興味をもってくれると良い
事業化に対する課題	<p>【来館者数・観光客数について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 来館者数が少ないため、入場料、お土産、ネーミングライツなどの展示施設の単体収入だけでは運営費を維持しきれない 種子島宇宙センターは、ロケット打上げ施設や自然環境が魅力的であるが、観光客数の少なさ、来島手段の乏しさが検討のボトルネックとなる 種子島には宿泊施設、交通手段がネックという課題がある 年間来場者数は6万人、コロナ禍で3万人だと、事業リスクはかなり高い <p>【地元自治体・地域との関わりについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 島全体のコンセプト・ブランディング戦略構築が課題であり、地元自治体との連携が重要ポイントとなってくる 種子島宇宙センターの展示施設単体で事業を実施するのではなく、島内で組合を作り、島全体で豊かになるというビジョンを作り直した方がよい ロケットの展示・紹介という発想だけに留まらず、美しい景色や豊かな自然にも注目し、種子島全体をブランディングし、最終的に島の活性化に役立てることもセットで考えた方がよい
要望	<ul style="list-style-type: none"> 新たな建屋を立てるなら、面積などの条件がはっきりしてくると話がしやすい 既存建屋について、今後どのくらいの修繕・建て替え費用が必要なのかを検討できる資料があればよい 打上げ時に種子島宇宙センターへの入構が可能になるか調整してほしい

4. 今後について

今回のサウンディングにおいて、民間事業者の皆様からロケット実機展示と種子島の自然環境を活かした様々な事業のご提案をいただきました。

一方、来島手段の乏しさ、観光客数の少なさが事業化に対する課題であるとのご提示もいただきました。これらは我々だけでは解決し難いものであり、現時点においては、展示建屋の整備や以降の運営を含めた一連の活動全体をPFI手法により成立させることは難しそうであると受け止めたところです。

今後は、他の手法等も活用することにより、今回の構想が実現できるかどうかを含め、引き続き検討を継続してまいりたいと思います。

以上